

平成30年度農業後継者特別支援事業  
(リーンメーターを活用した繁殖母豚BCS評価法の習得と実践)

事業主体名 農業大学校畜産学部養豚科

### 1 目的

母豚の良好な繁殖成績を維持するためには、栄養状態を把握しながら適正な飼養管理に努め特に過肥にしないことが重要なポイントである。一般的には、触診によるボディコンディションスコア(BCS)評価法で栄養状態を判断しているが、経験の浅い学生には難しい。

そこで、背脂肪の厚さをリーンメーターで測定し、栄養状態を数値化して把握する事で適正な飼養管理法を習得する。併せて、BCS評価法の習得を目指す。

### 2 実施状況

#### (1) P2部位背脂肪厚測定方法の習得

##### ア 活動内容

マニュアルを参考にしながら、リーンメーターで測定するP2部位を探す練習と実際に背脂肪の厚さを測定した。

##### イ 効果

最終肋骨に指をかけてそこから背骨に向かって指を移動させ、背骨の下6.5cmにP2がある。繰り返し練習した事で特定する手法が習得できた。次に、リーンメーターで背脂肪の厚さを測定した。栄養状態が良好と思われても実際測定してみると背脂肪が薄い母豚(痩せ気味)もあり、測定する事の重要性を実感した。

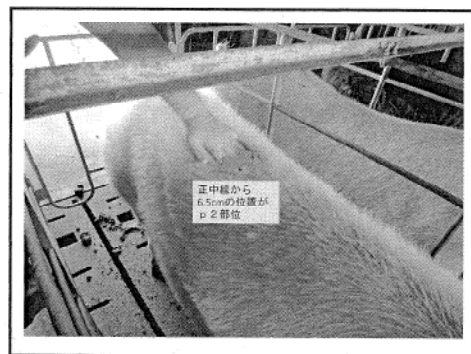


写真1 P2部位を確認中

#### (2) 膣鏡を用いた子宮頸管外口部の観察

##### ア 活動内容

発情期・非発情期の母豚の子宮頸管外口部を膣鏡を用いて観察した。

##### イ 効果

通常母豚の発情は、日々の行動観察によって判断しているが、今回、膣鏡を用いて子宮内部の粘液の有無や外口部の発赤状況を観察した。より確実に発情期を把握出来る事を理解した。同時に、直腸を介した子宮頸管や卵巣の触診も実践し、発情期・非発情期の頸管の硬さに違いがある事が理解できた。



写真2 膣鏡による外口部の観察

#### (3) 妊娠期間の背脂肪測定による飼料給与量の調整

##### ア 活動内容

妊娠中の母豚の背脂肪の厚さをリーンメーターで定期的に測定した。その結果を基にBCSを判定して飼料給与量の増減を行った。

##### イ 効果

- ①LWD120号：妊娠後期～分娩にかけて背脂肪の厚さ17～18mm(BCS3～3.5)に保つことができ、良好な栄養状態で管理することができた。
- ②B314号：妊娠前から中期にかけて背脂肪の厚さが18～19mm(BCS3.5)に達するなど過肥気味だったので給与飼料量を8割に減じ管理したが、分娩前後には15～16mm(BCS2.5)まで落ち込ませてしまい、予想に反した栄養状態となってしまった。



写真3 P2部位の背脂肪を測定

### 3 今後の課題、取り組み

哺育期間中の母豚のBCSと子豚の発育に関する調査及び離乳後のBCSコントロールと発情回帰日数に関する調査を行う。併せて目視・触診によるBC評価法の習得を引き続き行う。